

直轄工事における事故発生状況について

令和7年11月11日

国土交通省 近畿地方整備局
企画部 技術調査課 矢羽田 寛治



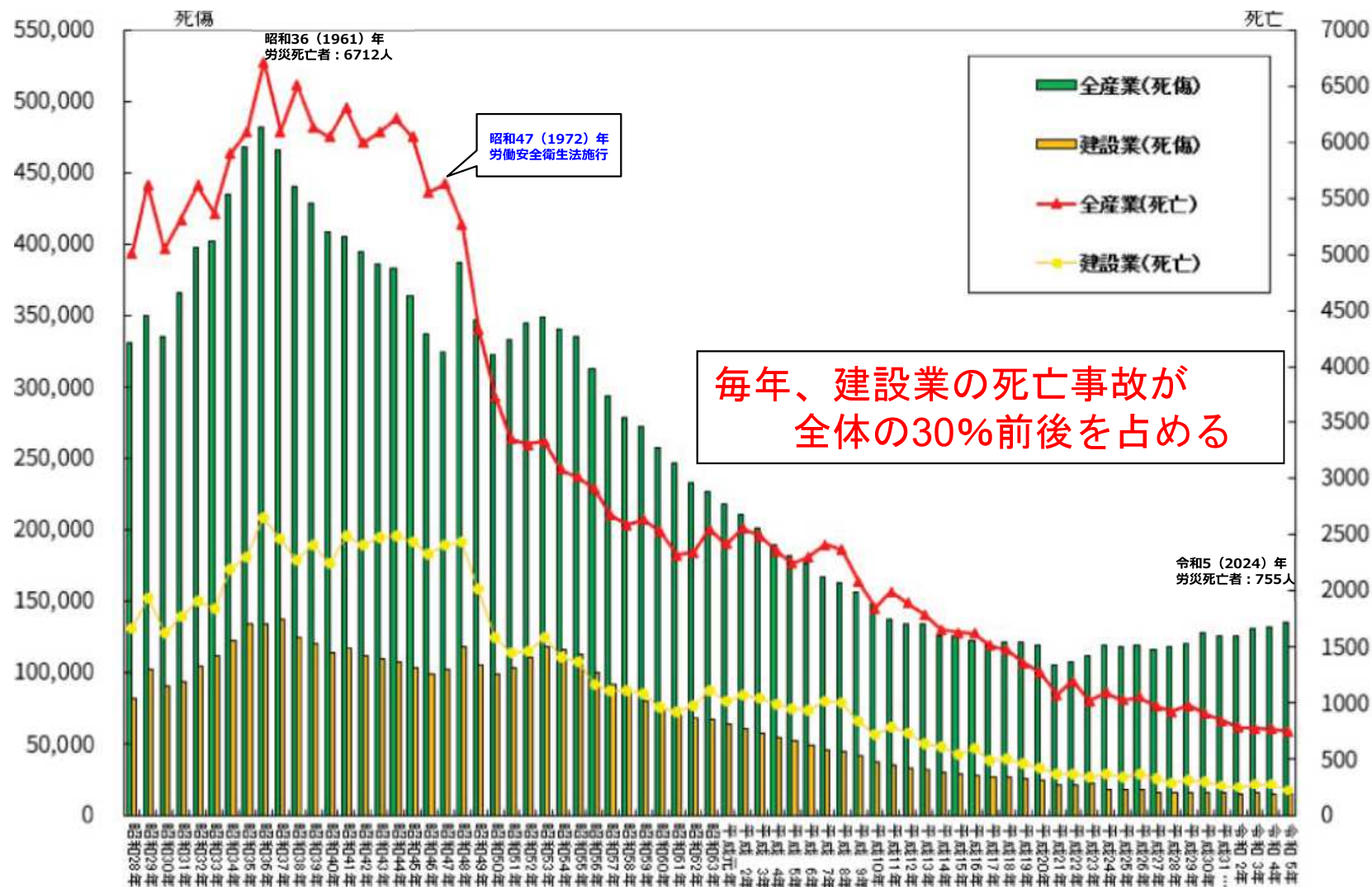
- (1)全国の労働災害の発生状況
- (2)直轄工事における事故発生状況
- (3)近畿地方整備局管内の事故発生状況
- (4)近畿地方整備局の事故防止重点対策項目
- (5)近畿管内の事故事例
- (6)その他、連絡事項等



(1)全国の労働災害の発生状況

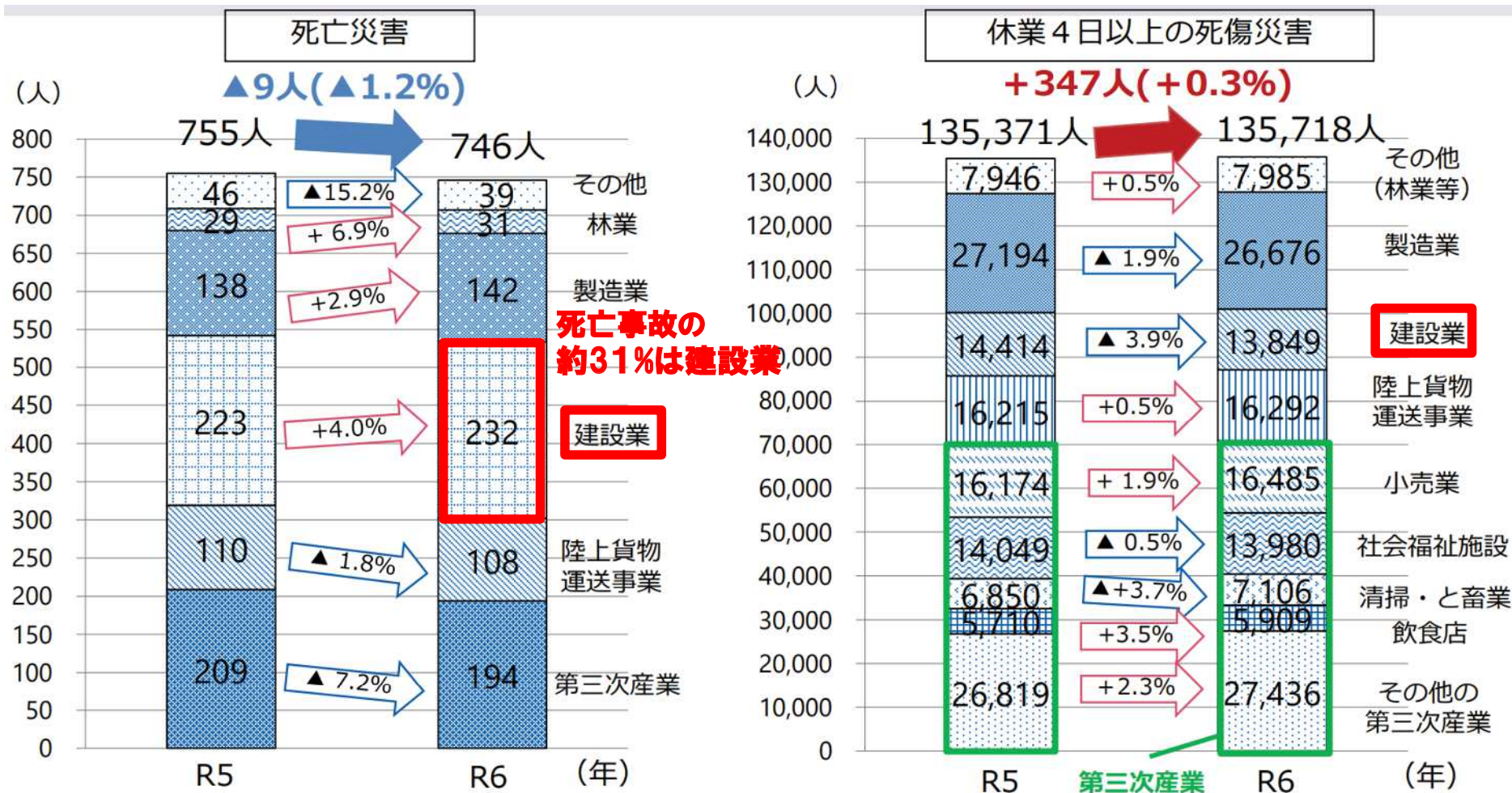
(1)全国の労働災害の発生状況

1)全産業に対する建設業の死傷者数の推移



(1)全国の労働災害の発生状況

2)令和6年の業種別労働災害発生状況（全産業、R6年は精査中）



※ 令和6年1月1日から令和6年12月31日までに発生した労働災害について、令和7年4月7日までに報告があったものを集計したもの

出典：死亡災害報告

※新型コロナウイルス感染症へのり患による労働災害を除いたもの。

出典：労働者死傷病報告

※新型コロナウイルス感染症へのり患による労働災害を除いたもの。

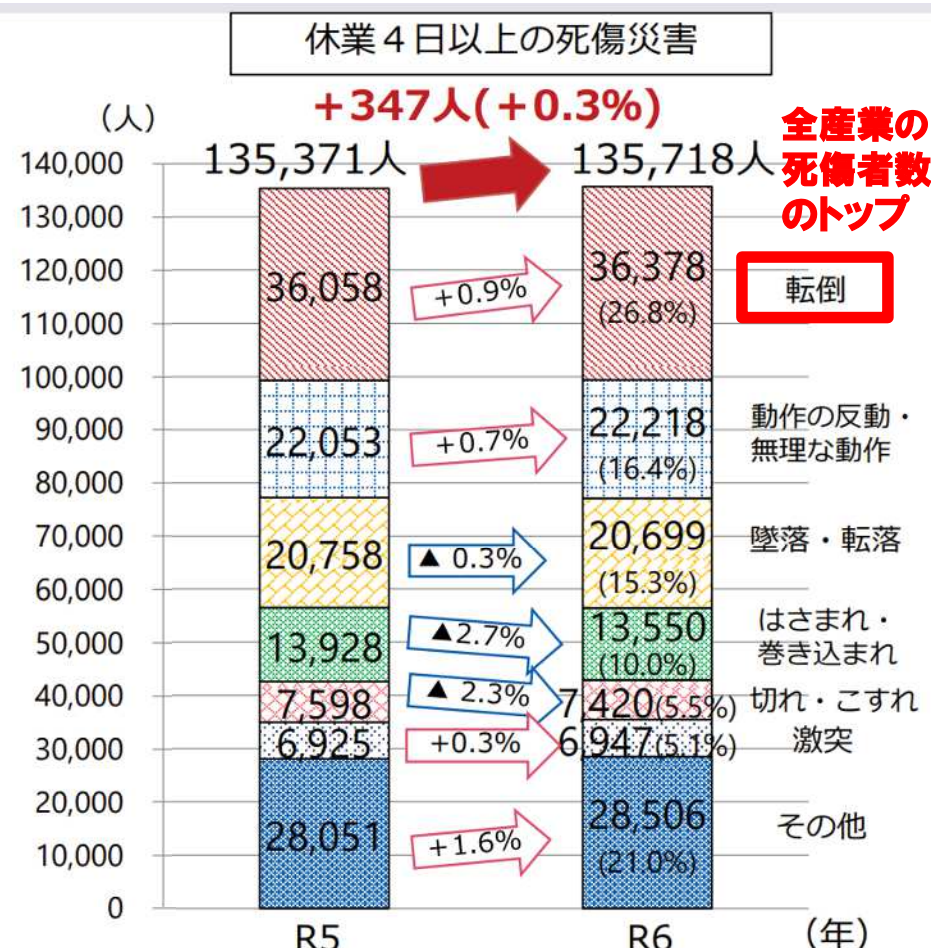
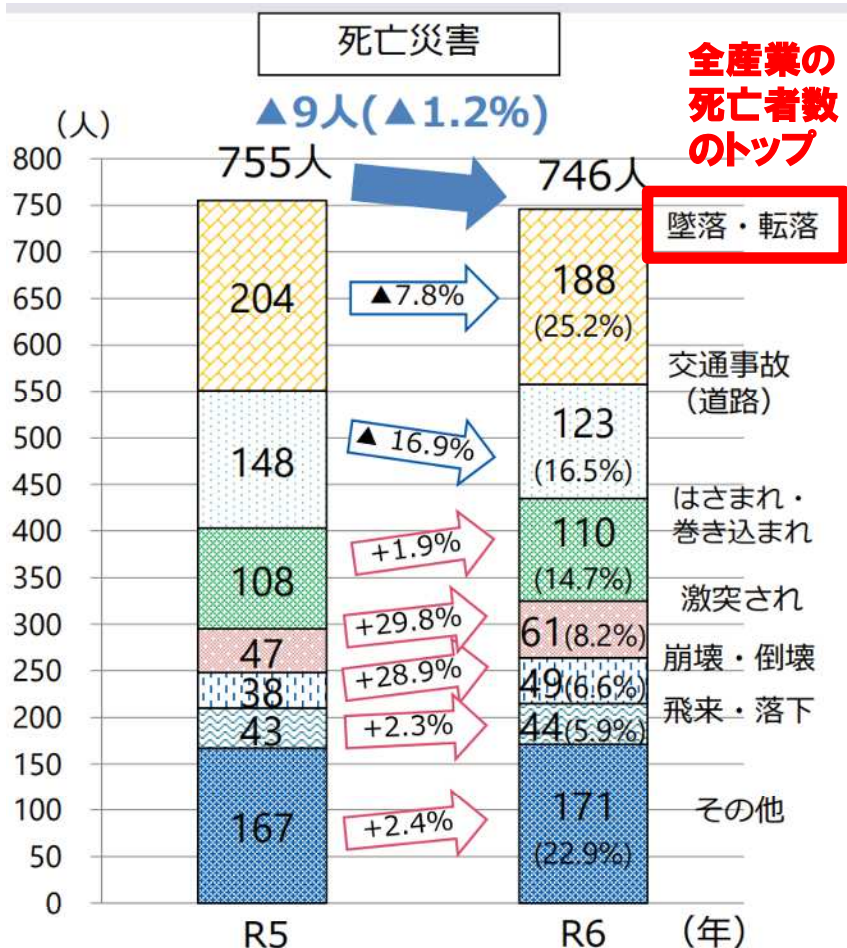
※全産業の死亡災害は昨年より減っていますが、建設業の死亡災害は4%増えています。

出典：厚生労働省HP

※建設業は、ひとたび事故が発生すると、死亡事故につながりやすい。

(1)全国の労働災害の発生状況

3)令和6年の型別労働災害発生状況（全産業、R6年は精査中）



※ 令和6年1月1日から令和6年12月31日までに発生した労働災害について、令和7年4月7日までに報告があったものを集計したもの

出典：死亡災害報告

※新型コロナウイルス感染症へのり患による労働災害を除いたもの。

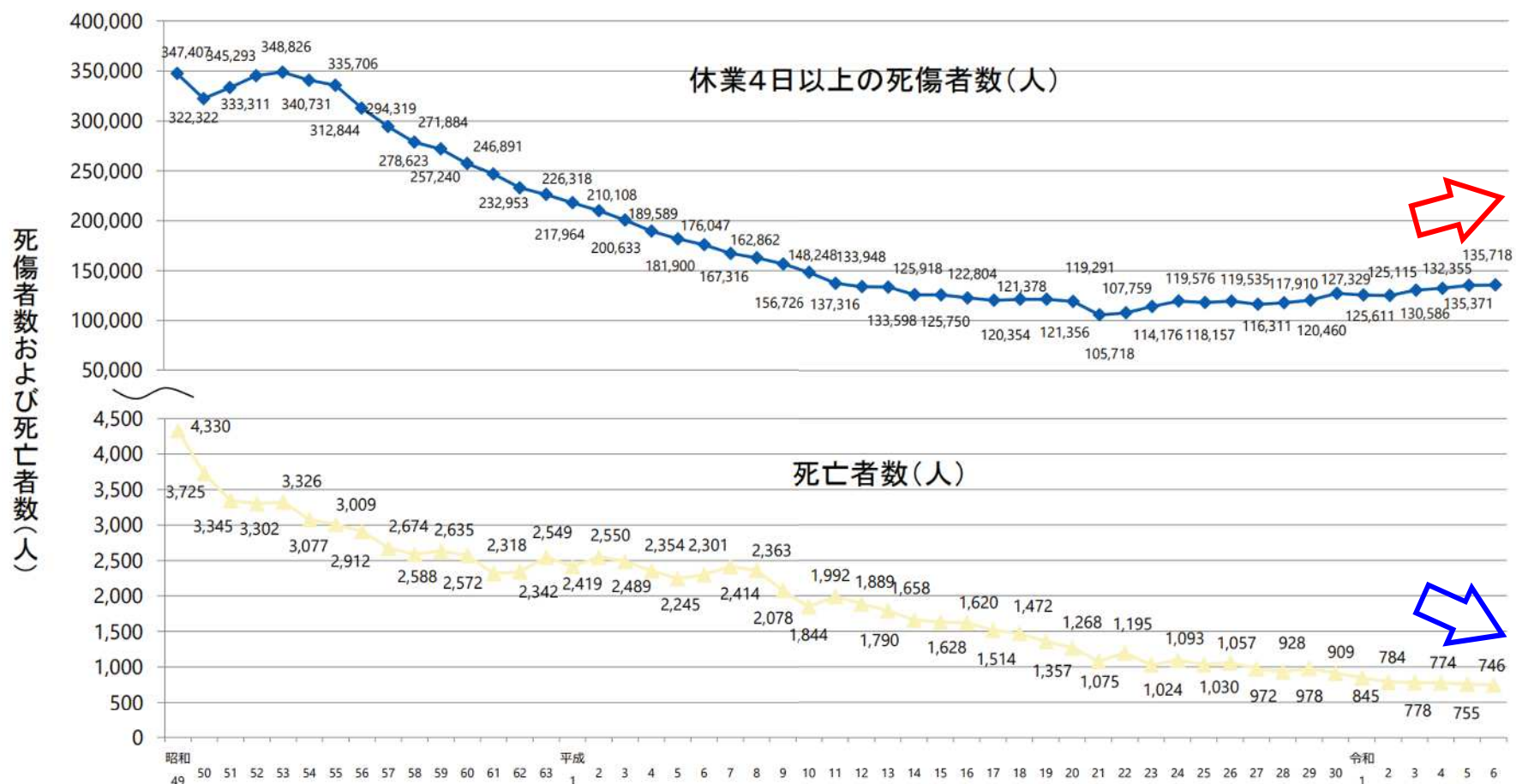
出典：労働者死傷病報告

※新型コロナウイルス感染症へのり患による労働災害を除いたもの。

出典：厚生労働省HP

(1)全国の労働災害の発生状況

4)全産業における死亡者数、死傷者数の推移



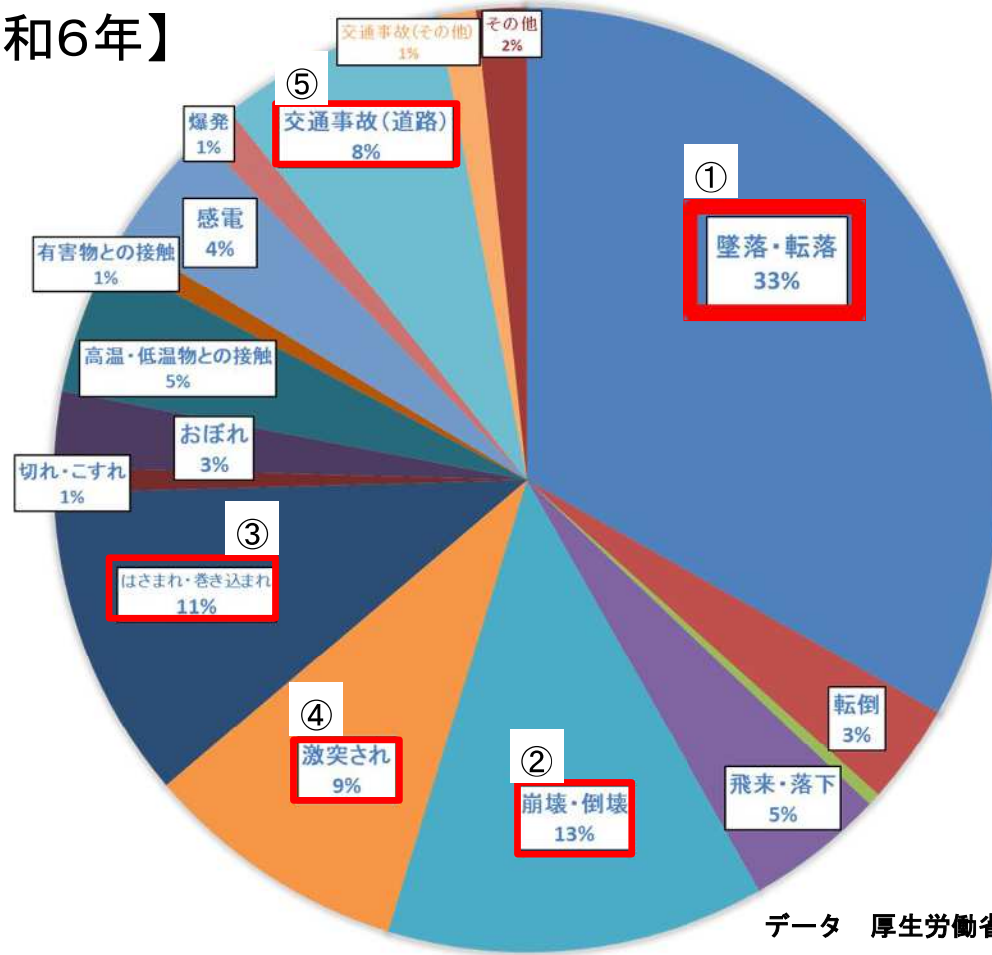
出典:厚生労働省HP
※R6年の数値は精査中

- 全産業において死亡者数は長期的に減少傾向にあり、令和6年は過去最少となっている
- 休業4日以上死傷者数は近年、増加傾向にある

(1)全国の労働災害の発生状況

5)建設業における死亡災害の発生状況

【令和6年】

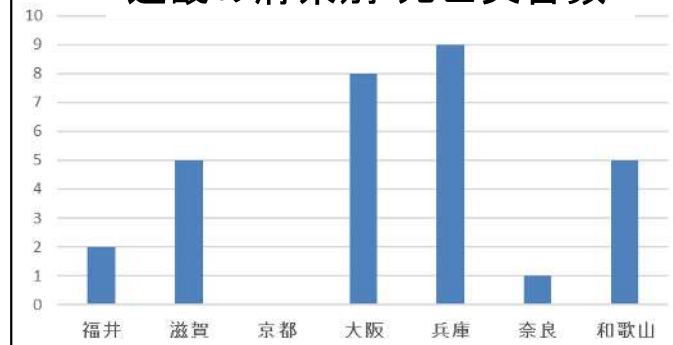


死亡災害は、毎月、どこかで発生しています

全国の月別の死亡災害発生数



近畿の府県別 死亡災害数



データ 厚生労働省HPより加工 ※R6年の数値は精査中

- 令和6年の全産業の死亡災害746人のうち、建設業における死亡災害は232人（約31%）。
- 建設業の死亡事故も全産業と同じく「墜落・転落」が最も多く77人（約33%）の方が亡くなっています。
- 高所作業など、危険な作業環境では、作業前に事故防止対策の再確認を！

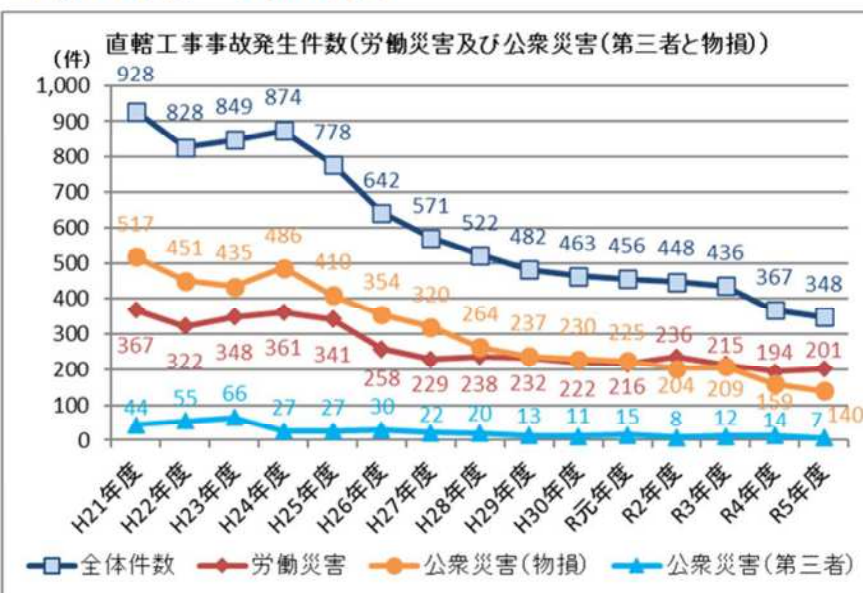


(2)直轄工事における事故発生状況

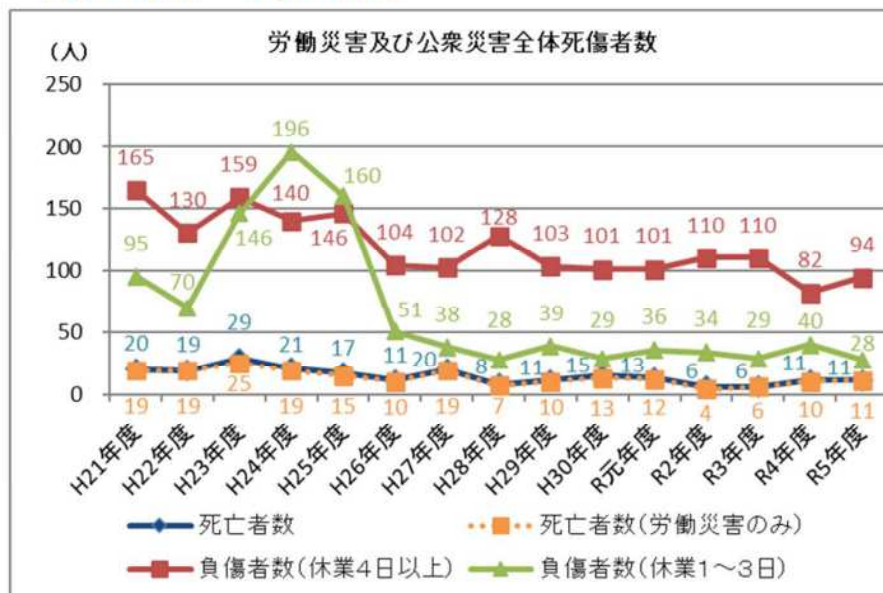
(2)直轄工事における事故発生状況

1)全国の直轄工事における事故発生状況(～令和5年度迄)

工事事故発生件数(労働災害及び公衆災害)
平成21年度～令和5年度



死傷者数(労働災害及び公衆災害)
平成21年度～令和5年度



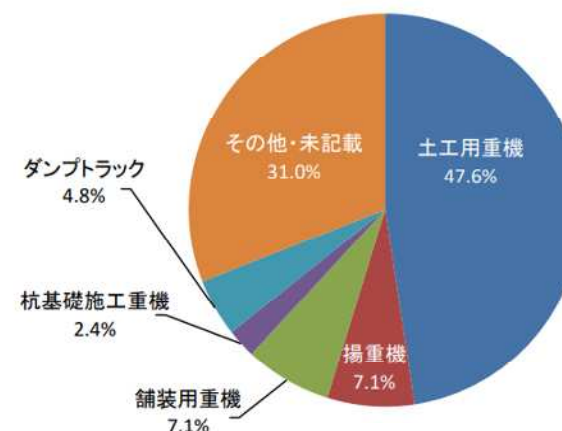
令和5年度の事故発生状況

- 労働災害及び公衆災害による事故発生件数は348件であり、数年間連続で減少傾向にある。
- 労働災害の事故発生件数は201件であり、昨年度より7件増加した。
- 公衆災害(物損)の事故発生件数は140件であり、昨年度より19件減少した。
- 労働災害及び公衆災害による死亡者数は11人であり、昨年度より増減はない。
- 負傷者数(休業4日以上)は94人であり、昨年度より12人増加している。
- 負傷者数(休業1～3日)は28人であり、昨年度より12人減少している。

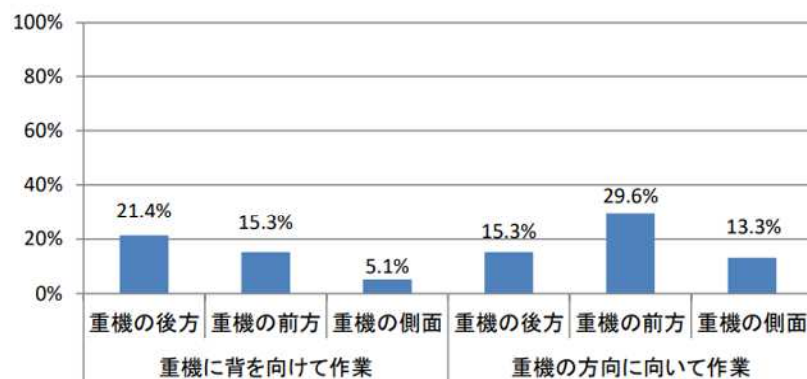
2) 重機事故のデータ分析①

(平成30年度～令和4年度SASデータより)

重機名称	事故件数 (件)	割合 (%)
土工用重機	20	47.6%
揚重機	3	7.1%
舗装用重機	3	7.1%
杭基礎施工重機	1	2.4%
ダンプトラック	2	4.8%
その他・未記載	13	31.0%
計	42	100.0%



重機の種類別事故発生状況(令和4年度)



被災者と重機の位置関係(平成30年度～令和4年度)

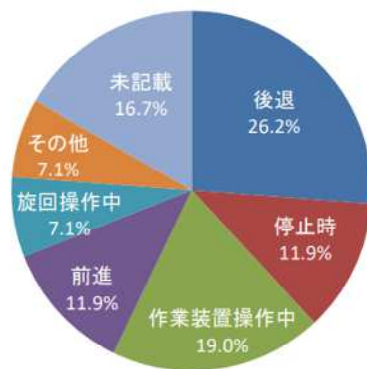
[重機事故の内訳]

- 重機事故の内訳として、土工用重機（バックホウ等）による事故の割合が47.6%と最も多い。（令和4年度）
- 被災者と重機の位置関係では、「重機の前方」と「重機の後方」での事故が多く、重機の誘導や合図確認が確実に行われていないことが原因と考えられる。

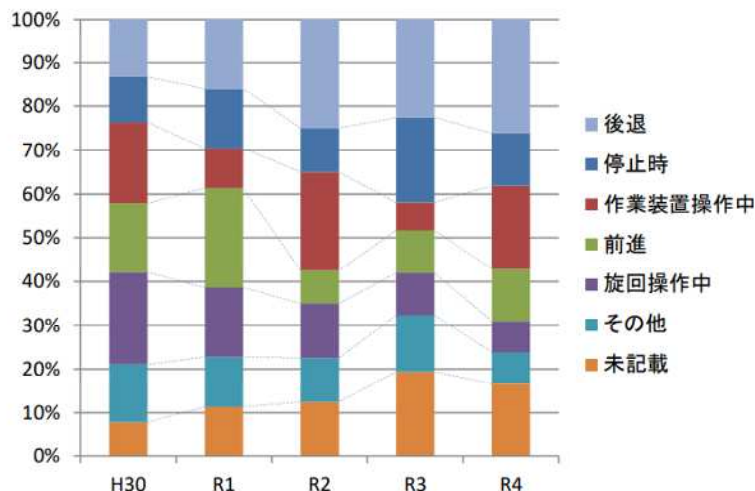
2) 重機事故のデータ分析②

(平成30年度～令和4年度SASデータより)

動作状況	事故件数 (件)	割合 (%)
後退	11	26.2%
停止時	5	11.9%
作業装置操作中	8	19.0%
前進	5	11.9%
旋回操作中	3	7.1%
その他	3	7.1%
未記載	7	16.7%
計	42	100.0%



重機の動作状況別事故発生状況(令和4年度)



重機の動作状況別事故発生状況
(平成30年度～令和4年度)

[事故発生時の重機の動作状況]

- 重機の動作状況別の事故件数において、「旋回操作中」の事故に比べて「後退」や「作業装置操作中」の事故発生比率が大きく、過去5年間の推移においても増加傾向にある。
- 作業装置操作中に発生した災害については、重機稼働中の人払いが徹底されていないことが原因と考えられる。

[重機事故の対策]

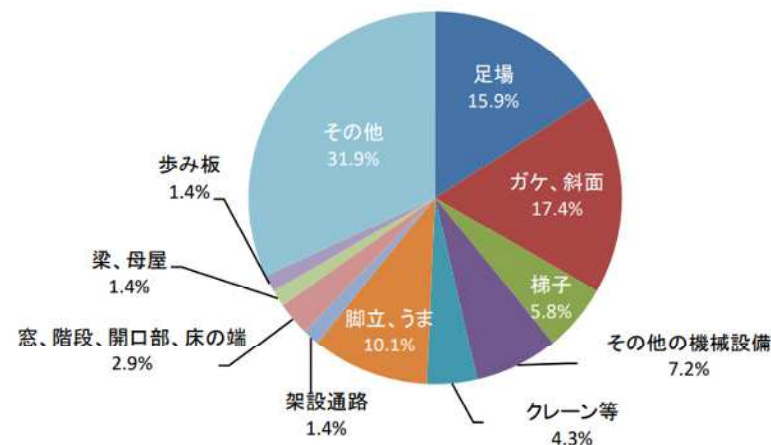
- 重機作業エリアの立入禁止措置を講じること。
- 重機の付近で作業員による作業が必要となる場合は、事前に合図方法を定め、合図者を配置する。
- 重機が移動する際は誘導者の配置を徹底し、重機運転者から見えやすい位置で明確な誘導を行う。
- 重機の運転者ではない作業員を重機の運転席に寄せ、死角の確認などの危険体験教育を実施することも有効である。
- 「安全の見える・聞こえる化」の推進として、作業員への注意喚起やICT技術による接触防止システムの普及推進も重要である。

(2)直轄工事における事故発生状況

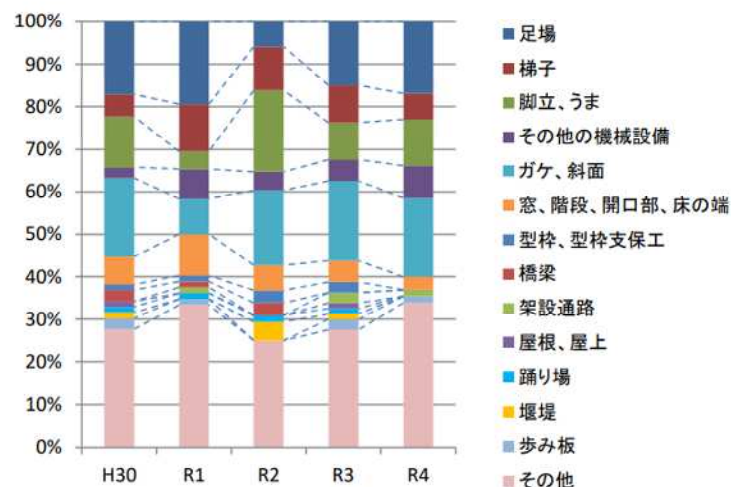
3) 墜落事故のデータ分析①

(平成30年度～令和4年度SASデータより)

場所	事故件数 (件)	割合 (%)
足場	11	15.9%
ガケ、斜面	12	17.4%
梯子	4	5.8%
その他の機械設備	5	7.2%
クレーン等	3	4.3%
脚立、うま	7	10.1%
架設通路	1	1.4%
窓、階段、開口部、床の端	2	2.9%
梁、母屋	1	1.4%
歩み板	1	1.4%
その他	22	31.9%
計	69	100.0%



墜落事故の場所別発生割合(令和4年度)



墜落事故の場所別事故件数の推移
(平成30年度～令和4年度)

[墜落事故の場所別発生割合の内訳]

- 最も多いのは「**ガケ、斜面**」の**17.4%**であり、次に「**脚立、うま**」、「**足場**」の順番が多い。(R4年度)
- 過去5年間の推移をみると、令和2年度で割合が減少していた「**足場**」からの墜落が今年度では令和3年度に引き続き増加傾向にある。